

河野太郎デジタル大臣来校

データサイエンスを学ぶ意義と可能性を議論



学生たちを激励する河野太郎大臣



学生代表3人が壇上

7月5日、河野太郎デジタル大臣が本学に来校し、「デジタルとイノベーション」がもたらす影響、そして「デジタル大臣が担う役割について解説した。『日本が語る新たな可能性』と題した特別講演会が開催された。会場となった6号館101教室には、約480人の学生・教職員が集まった。

はじめに河野大臣は、「DXを進めることの意義が重要だ」と日本のIT業界が今後目指すべき姿を提示した。さらに、AIとどう向き合うべきか、またAIが発達する今こそ学ぶべきことは何かについて率直な意見を交わした。

質疑応答では、会場から130件にも及ぶ質問が寄せられた。IT業界でデジタル化が進む中で浮き彫りになる問題について言及。あらゆる分野でデジタル技術が基盤となる時代であること示し、「技術によるリスクは技術で対応するしかない。文理の選択にとわかれず、誰もがITスキルを身につけてほしい」と訴えた。

講演ではグローバルな視点から、デジタル化が進む中で浮き彫りになる問題について言及。あらゆる分野でデジタル技術が基盤となる時代であること示し、「技術によるリスクは技術で対応するしかない。文理の選択にとわかれず、誰もがITスキルを身につけてほしい」と訴えた。

Tベンチャーへの依存を例に挙げながら、直近20年で日本が世界に後れを取った理由について見解を述べた。

また、生成AIによるフューチャーを担う学生に期待を込め、河野大臣と在学しているパネリストの急増な学生によるパネリストセッションを行った。生成AIに関する学内利用調査の結果が共有されたのち、学ぶうえで生成AIとどう向き合うべきか、またAIが発達する今こそ学ぶべきことは何かについて率直な意見を交わした。

質疑応答では、会場から130件にも及ぶ質問が寄せられた。IT業界

110年のあゆみを写真とともに紹介

創立110周年記念サイト開設

今年、本学は創立110周年を迎えた。この節目を記念し、公式ウェブサイトに110周年記念



サイト「上智大学110th Anniversary」を開設した。理事長・学長からのメッセージのほか、学生によりデザインされた記念ロゴマークの解説や、本学の創立から現在に至る110年のあゆみなどを紹介している。

110年のあゆみでは、1913年の開学から今日までの本学の歴史を、特にグローバル関連の出来事を中心に掲載。1号館竣工(32年)、教皇ヨハネ・パウロ2世来校(81年)など、当時の写真とともに紹介している。今後、現在制作中の記念動画を11月の創立記念日に合わせて掲載するほか、110周年にちなんだイベントやピックアップなどを随時公開していく予定だ。

▼110周年記念サイト

ひとつ丁寧な答えた。学問と日本市場の相違点、高齢化が進むなかでのデジタル推進など、時間の許す限り河野大臣はひとつひとつ丁寧に答えた。学問と日本市場の相違点、高齢化が進むなかでのデジタル推進など、時間の許す限り河野大臣はひとつひとつ丁寧に答えた。

2023年度 上智大学後援会総会

学生生活を多方面から支援

5月13日、2号館17階国際会議場において、2023年度上智大学後援会総会が開催され、役員をはじめ、多数の会員(学生の父母・保証人)が出席した。総会では、2022年度決算、2023年度予算、および2023年度役員改選の議案3件が審議され、全てが承認された。

2023年度の予算のうち、大学への寄付の総額は3932万2千円。寄付項目には100円朝食への支援やWEB面接用ボックス「テレキューブ」レンタル費用支援が含まれるほか、家計急変者への奨学金給付、派遣交換留学生奨学金などとして活用される。

また、役員改選の承認に伴い、2022年度副会長であった森本聡氏(総合人間科学部4年次生保証人)が第46代会長に就任した。

総会に続き、理工学部情報理工学科の矢入郁子教授により「人工知能S大学院初年度に寄せて」と題しての講演会が室内・後援会事務局で開催され、参加者は熱心に耳を傾けた。会場から「イメージがわかない」「理解することができない」などの声が寄せられた。その後、懇親会が行われ、会員同士の交流に

は、コロナ禍を経て定着しつつあるWEB面接用のボックスとして「テレキューブ」3台分のレンタル費用支援、キャンパス内の食堂で朝食を100円で提供する「100円朝食」などを行います。

そして、会員相互の親睦も重要な活動の一つです。懇親会では多くの先生方や会員同士の交流が可能であり、また、懇親会は、理事長・学長・学部長と直接お話しができるなど、大学をより身近に感じることができるとな

3大学連続ワークショップ

ウクライナ復興そして未来を考える

第1回は本学で開催



上智大学、慶應義塾大学の果たすべき役割、産官学、東北大学は、国内外の連携の在り方などにおけるウクライナ復興に向けた活動状況、日本興支援に向けた具体的な議論を推進していくことを目的として、3大学で連続ワークショップを開催することを決定した。

6月30日、その初回は本学で開催された。

上智大学、慶應義塾大学の果たすべき役割、産官学、東北大学は、国内外の連携の在り方などにおけるウクライナ復興に向けた活動状況、日本興支援に向けた具体的な議論を推進していくことを目的として、3大学で連続ワークショップを開催することを決定した。

6月30日、その初回は本学で開催された。



産官、NGO等の専門家が一堂に会した

ウクライナ復興に関する専門家が登壇。復興に向けた取り組みや復興支援の課題、ウクライナ復興の重点事項など、産官、NGOそれぞれの視点から議論を展開した。

続いて「我が国が果たすべき役割を考える」をテーマに、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の田中浩一郎教授と、東北大学理事・副学長で同国際法政策センター長の植木俊哉

でウクライナ復興に関する専門家が登壇。復興に向けた取り組みや復興支援の課題、ウクライナ復興の重点事項など、産官、NGOそれぞれの視点から議論を展開した。

続いて「我が国が果たすべき役割を考える」をテーマに、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の田中浩一郎教授と、東北大学理事・副学長で同国際法政策センター長の植木俊哉

支援のための司令塔の設立と国内体制作りの3つの軸で論じた。

次に「国内外の動向を考察する」をテーマとしたセッションでは、外務省や国際機関、NPOなど

後援会会長 新任のご挨拶

上智大学後援会会長 森本 聡



本年度、上智大学後援会会長を務めさせていただくことになりました。在学生のご父母、保証人の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

上智大学後援会は、アイエス会所属の先生

方が給与から最低限の生活費を除いたすべてを大学に寄付しているという献身的な姿勢を、当時の在学生父母がきっかけで1973年に発足した任意団体です。

会員は在学生の父母、保証人で構成され、学生の学修環境を少しでも改善させ、充実した学生生活を送ってほしいという善意の会費で運営されており、設立以来、会費は累計で77億円を超えています。

当会の主な活動は、父母・保証人目線による学生への支援であり、主な支援には、大学の教育環境・設備の改善援助、就学継続が困難な学生への経済的支援などがあります。

具体的には、今年度

は、コロナ禍を経て定着しつつあるWEB面接用のボックスとして「テレキューブ」3台分のレンタル費用支援、キャンパス内の食堂で朝食を100円で提供する「100円朝食」などを行います。

そして、会員相互の親睦も重要な活動の一つです。懇親会では多くの先生方や会員同士の交流が可能であり、また、懇親会は、理事長・学長・学部長と直接お話しができるなど、大学をより身近に感じることができるとな

わかれ、会員同士の交流に加え、学生課外活動団体によるパフォーマンスが披露された。

上智大学後援会は1973年に発足。会費は、大学の教育研究環境の改善のためなど、さまざまに活用されています。

入会方法など後援会についてのお問い合わせは、総務局ソフィア連携室・後援会事務局まで。

▼電話(3238)3127

▼上智大学後援会ウェブサイト